

令和6年4月

卯

あ お ぞ ら

月

第398号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町 20-1 TEL 31-1138

(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「地域の教育力を生かし、健全な青少年の育成を」

鹿屋市教育委員会 生涯学習課長 宇井 知隆

街路樹のくすやつつじなどの新緑に癒されながら通勤していると、小学校の通学路では、多くの地域の方々が黄色い旗を持って、子どもたちの登校を見守ってくださっています。鹿屋市内のあちらこちらで目にする光景です。登校指導に限らず、学校運営協議会、地域学校協働活動、かのや寺子屋事業、子ども会、PTA、町内会、地域住民とのふれあい活動等々で多くの市民の皆様方に青少年の健全育成に関わっていただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、鹿屋市教育委員会に設置された（昭和60年4月1日設立）青少年育成センターは、常時活動として、教育相談や街頭での指導、非行防止、環境浄化など、青少年健全育成に関係のある機関・団体との密接な連携のもと、青少年の育成活動を総合的に推進しています。

青少年育成センター活動の重点として、下記の5項目を挙げています。

- 一 街頭補導による実態把握と早期対応
- 一 教育相談業務の充実による、不安および課題の早期発見・早期対応
- 一 関係機関・団体との連携を密にした組織的対応
- 一 研修を通しての指導員、相談員、指導委員の指導力向上
- 一 広報活動による地域ぐるみの取組の推進

この「あおぞら」の発行は、青少年の健全育成を市民総ぐるみで推進するための具体的な広報活動であり、地域の子どもたちをみんなで守り育てていくための『市民の輪』を広げていこうとするものです。ぜひ、市内の様々な場所や機会でご覧にさせていただきたいと思っております。

皆さんは、改めて「子どもを育てるということとは、どういうことか。」と問われた際、どうお答えになりますか。それぞれ人によって、様々な表現方法があると思いますが、私は、やなせたかしさん原作の「アンパンマンの主題歌」をもとにお話

をしています。歌詞の一節に「何のために生まれて何をして生きるのか 答えられないなんてそんなのは いやだ」という節があります。シンプルな歌詞ですが、深い意味の歌詞です。

人生は、「何のために生まれて何をして生きるのか」この答えを探して、学び続けることであると考えています。つまり、人生の先輩である大人には、ぜひ人生を語って欲しいということです。これは、正しい答えがどこかにあって、それを知らない子どもたちに教えてあげるということではなく、私たち大人と子どもと一緒に考える、親子ともに考える＝『併走する』ということがとても大切だということです。

今と昔では、子育てやしつけをめぐる社会的環境が大きく変わってきている現在、私たち大人が様々な機会を的確に捉え、青少年を健全育成に導いていく必要があります。子どもを育てることで親も育つと言われるように、地域の青少年を地域全体で健全に育てていくことで、地域人材や個々のシビックプライド（※）が育っていくのかもしれない。

鹿屋市には、子ども会、スポーツ少年団、ボーイスカウト等の異年齢集団活動をはじめPTA、町内会等、地域ぐるみで子どもたち育て、見守っていこうとする気風が脈々と残っております。

本年度も、これらの地域の教育力を活かしながら、各関係団体と連携し、青少年の健全育成に取り組んでまいります。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

※ 「地域への誇りと愛着」

